

I 実践

1 研究主題

人権を尊重しようとする心情が深まる人権教育の在り方

～道徳の時間や総合的な学習の時間、特別活動を通した心豊かな生徒の育成を目指して～

(1) 主題設定の理由

本校は、「社会の変化に夢をもって対応できる心豊かでたくましい生徒の育成」を教育目標に掲げ、「学ぶ力を磨き合う生徒」「豊かな心を高め合う生徒」「たくましい心身を磨き合う生徒」を目指す生徒像としている。その中でも、「豊かな心を高め合う生徒」が人権教育と直接関わりのある目標であり、それを受けて、本校では、「お互いのちがいを理解し相互に認め合い、尊重することができる生徒」「思いやりの心を持って接することのできる生徒」「挨拶・返事・清掃がしっかりできる生徒」「自己有用感がもてる生徒」の育成をめざした取組をマニフェストの中に位置付けている。

本校は、全校生徒145名の小規模校であり、生徒同士の関わりが密である。反面、不用意な発言や態度がもとで、相手が傷つき孤立しがちになり、人権を意識しない事例も見られる。これは、人権とは何かを考える機会が少なく、相手を思いやるお互いを尊重する態度が育っていないことにも起因している。

本校の生徒の実態からも、「支持的な風土の学校」をつくる重要性が増しているといえる。それには、共感的な理解を基盤とする生徒の育成が不可欠であり、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」ことが重要である。

そこで、本校の実態をもとにお互いの人権を尊重し合う学校づくりを進めるために本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

(3) 研究内容

- ①学校行事やボランティア活動、福祉体験等の体験活動を通して、人権尊重の精神を育ませる。
- ②人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営を行う。
- ③人権コーナー(掲示板)を整備し、学校環境を整える。
- ④差別、偏見などの人権に関する実態調査を実施し、生徒への指導・援助を行う。

2 実践内容

(1) 基底的指導における実践

ア 生活委員会や生徒指導部を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかマナーアップ運動」を1年間を通して行った。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつできるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。

イ 人権尊重のポスターを掲示し、人権意識の啓発を図った。

ウ 人権作文や書道コンクール等に応募し、人権について考える機会とした。

エ 差別や偏見に対する実態の把握、生活アンケート調査やQ-Uテストの分析・活用。

(2) 道徳の授業における実践

ア 実践学級 2年

(ア) 題材 「伝言板」(学研)

(イ) ねらい 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ心情を育てる。

(ウ) 内容

本資料は、駅の花をつみ取った事を謝罪する女子高校生からの500円が同封された手紙を読んだ女の子と母が、女子高校生に代わり花の苗を駅に置いた姿を通して、相手の立場を温かい心で理解し共感的に感じ取ることができる資料である。

(エ) 活動の様子

駅の花壇に咲く花をつみ取った事を注意された女子高校生の葛藤と心情の変化に焦点をあてながら、500円を同封し謝罪の手紙を書いた女子高校生と受け取った親子のロールプレイングを取り入れ、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ心情の育成を図った。

終末では、教師の体験談から思いやりの心を態度に示すことで、心が満たされた思いがした事例を話すことで余韻を持たせた。

(3) 総合的な学習の時間における実践

本校の総合的な学習の時間のテーマは、「キャリア教育」である。キャリア教育の内容の中で人権教育と結びついた内容もいくつか実践している。各学年の発達段階や生徒の実態を考慮するとともに、3年間を見通した活動内容を決めている。

ア エコサイクル(平沢学区内の再生資源の回収活動)＜全学年＞

(ア) 目的 地域での回収活動を通して、働くことの意義について考えさせ、奉仕の心や他の人と協力し合う態度を育てる。

(イ) 内容 グループでの回収活動(新聞紙、雑誌、段ボール、空き缶等)や積み込み等

(ウ) 活動の様子



エコサイクルでは、環境委員会の計画のもと、異学年グループによる地域での回収活動を通して、お互いに協力し合いながら大量の新聞紙等の再生資源の回収活動に取り組むことができた。また、地域の人から回収活動中に「ご苦労様」と声をかけられるなど働くことの大切さに気づき、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

イ 映画鑑賞会 『1リットルの涙』＜全学年＞

(ア) 目的 視聴覚センターの小中学生対象の映画鑑賞事業の一環として、人権教育に関わる映画を鑑賞することで、障害を持つ人への理解を深め、人権を尊重しようとする心情を育む。

(イ) 内容 中学生の時に発症し運動機能を全て喪失してしまう難病「脊髄小脳変性症」と闘った少女、亜也の日記をもとにした25年間の短い生涯の闘病記録

(ウ) 鑑賞の様子



映画鑑賞後の生徒が書いた感想の中に、難病の「脊髄小脳変性症」と闘った亜也の強い生き方に感動した。障害がある人が困っている時には、自分ができることを何かしてあげたい、などの感想が多数見られた。映画鑑賞を通して障害をもつ人への理解を深めることができ、人権感覚を養い他人を思いやろうとする心情を育むことができた。

(4) 仲町交流センターと連携したボランティア活動の実践

ア 仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動 ＜全学年＞

(ア) 目的 積極的に福祉体験的な活動に取り組むことで、心豊かな生徒の育成を図る。

(イ) 内容

・ 5月21日(土)	9:00～10:30	除草作業
・ 7月16日(土)	9:00～10:30	除草作業
・ 7月17日(日)	14:00～17:30	仲町子ども祭り
・ 8月2日(火)	9:15～12:10	福祉フォーラム
・ 8月6日(土)	14:00～17:30	仲町学区夏祭り
・ 9月17日(土)	8:30～12:00	敬老会
・ 10月2日(日)	9:00～11:30	防災訓練
・ 10月16日(日)	8:00～10:00	宮田川清掃

(ウ) 活動の様子



毎回多くの生徒が、仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動に積極的に参加し、さまざまなボランティア活動に熱心に取り組むことができた。学区ボランティア活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度の変容が見られてきている。

3 成果

人権意識の高まりを強く感じた場面は、本校の体育祭や文化祭「桐葉祭」での輝くばかりの生徒の活躍する姿である。生徒一人一人の心が一つになった、女子全員による応援合戦や男子全員によるグランドボーイズ9、クラス対抗の合唱での美しいハーモニー。一人一人の個性と存在を最大限に尊重し、認め合った瞬間の感動がグランドや体育館で共有された。

II 今後の課題

生徒に人権感覚を身に付け、人権意識をはぐくむ人権教育の推進を図るために以下の課題があげられる。今後も教育活動全体を通して、人権教育の充実に向け継続的に取り組んでいきたい。

- (1) 教育活動全体を通して、互いの人権を尊重し合い明るい社会を築いていこうとする生徒の育成を図る。
- (2) 教職員自らの人権に関する理解と認識をさらに深め、指導力の向上を図るために研修の充実を図る。
- (3) 家庭・地域社会に対する人権課題の正しい理解と啓発活動を図る。